



イザヤ四十二章5、6節
義をもってあなたを召し、
あなたの手を握り、
あなたを見守り、
あなたを民の契約とし、
国々の光とする。

天を造り出し、
これを引き延べ、
地とその産物を押し広め、
その上の民に息を与え、
この上を歩む者に
豊を授けた創造主は
こう仰せられる。

創造された世界を生きる。

別の種は良い地に落ちて、
あるものは百倍、あるもの
は六十倍、あるものは三十
倍の実を結んだ。

(マタイ 13:8)

ジェネシスジャパン会長 宇佐神実

メンデルとダーウィン

メンデルが、遺伝に法則があることを発表したのは1865年、ダーウィンが「種の起源」を出版した6年後のことです。ですからダーウィンは遺伝に法則があることを知りませんでした。しかもメンデルの研究は1900年になるまでほとんど注目されませんでしたから、ダーウィンは生涯メンデルの法則を知らなかったでしょう。もし知っていたら進化論を提唱しなかったかもしれません。

メンデルは、当時のオーストリ

ア帝国（現在のチェコ東部）に生まれ、1847年にブリュンの修道院の司祭となりました。1851年からウィーン大学に留学して物理・数学・植物の解剖学や生理学・動物学などを2年間学んだ後ブリュンに戻り、1868年まで高等実技学校で自然科学を教えました。彼は1860年頃から10年にわたってダーウィンの著作に目を通していましたが、その影響を受けることは全くありませんでした。それはなぜでしょう。創造主の存在を確信していたメンデル

が、創造された世界を生きていたからではないでしょうか。

一方ダーウィンは、進化した世界、すなわち創造されなかった世界を生きていたのです。みなさん



グレゴール・ヨハン・メンデル
1882~1884

はどちらの世界を生きているでしょう。

創造されなかった世界

日本の公立学校で教育を受けた私は、教科書や教師から創造主の存在や天地創造の話を知ることがありませんでした。逆に無神論に基づく進化論の世界観が教育されました。創造主の存在しない世界の教育です。自然界に満ちる不思議も物質的側面からのみ説明され、進化してそうなったのだと教えられました。

私の父、宇佐神正海は、日本で創造論の先駆者として世界が創造されたことを伝えていましたし、私も天地が創造されたことを頭では信じていました。しかし創造された世界を実感することができず、創造されなかった世界を生きているように感じていました。なぜそのような矛盾をかかえてしまったのでしょうか。それは「そのように教育されたからだ」と今はわかります。週に1日教会では創造された世界を学びますが、残りの6日は学校で創造されなかった世界を学びます。クリスチャン家庭の子供には、私のような矛盾を抱えて育った方がたくさんいるのではないのでしょうか。

創造された世界

2018年9月にフィリピンの各地で創造に関して講義をしてきましたが、その時、日本とフィリピンの教育の違いを目の当たりにし、衝撃を受けました。

公立高校でも、授業が生徒の祈りから始まるのです。生徒や学生

たちは、創造主がおられることは当然のこととして、創造された世界を生きているのです。日本でこのような教育ができるのはホームスクールやチャーチスクールですが、私が子供のころは、そのような選択肢はありませんでした。

聖書の種蒔きのたとえに出てくる土壌の違いは何でしょうか。様々な適応は可能でしょうが、創造を信じるか信じないかにも当然当てはまります。

道ばたに落ちた種

宇佐神正海は、著書「良い地に種を」の表紙に、「日本は進化論という石ころや根株のある荒地です」と書かれています。創造主の存在を知らず、多くの人自分たちは進化して出現したと信じているため、福音の種が蒔かれても、進化論の世界観がそれをすぐに食べてしまうのです。

岩地に落ちた種

進化論を岩地のように固く信じ込んでいる人は、天地創造をそのまま事実だとは信じられません。神話かおとぎ話のように考えてしまい、聖書の残りもすべて信じられなくなります。聖書のどの言葉を受け入れ、どの言葉を受け入れないかは本人が決めます。結局、創造主にも聖書にも絶対的信頼を置くことができず、試練に会うと信仰から離れてしまうのです。

いばらの中に落ちた種

私がかつてそうであったように、進化論教育を受けた多くのクリスチャンは、進化論といういば

らに邪魔されているのではないのでしょうか。そうすると創造された世界を肌身で感じて生きることができません。創造された世界で生きていながらも関わらず、創造されなかった世界を生きってしまうのです。そうすると、この世の教えと聖書の教えに挟まれて信仰生活も宙ぶらりんになってしまいます。せっかく信仰を持っていても、実が熟するまでに至らないのです。

良い地に蒔かれた種

良い地とは、世の教えを信じて聖書を信じなかったり批判したりする人ではなく、「正しい、良い心でみことばを聞く人(ルカ 8:15)」だと教えられています。天地創造もそのまま信じる土壌です。そういう人は幸いだと聖書は宣言します。

「幸いなことよ。悪者のはかりごとに進まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかった、その人。(詩篇 1:1)」

私が米国で聖書を学んでいた時、神学者のエマート博士から繰り返し教えられたことばがあります。それが「聖書自体に語らせよ」です。

私たちが聖書の言葉を取捨選択して受け入れるのではなく、聖書こそ天地を創造し支配している創造主のことばだと全面的に受け入れるなら、聖書から学ぶことができます。そのような人に聖書はこう約束しています。

「まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。(詩篇 1:2-3)」

こういう人は、豊かな実を結ぶことが約束されているのです。「百倍、六十倍、三十倍の実を結んだ」とある通りです。聖書の最初から最後まですべて創造主が私たちに与えたことばだと信じられることは何と幸いです。その人は創造された世界を生きることができるのです。フィリピンで私が創造を語った後、聴衆の約3分の1がキリストを信じました。それは、そこが良い地だったからだと確信するのです。

幸いな人

創造された世界を生きだしたメンデルの人生は、順風満帆だったわけではありません。1850年に教師の試験に落ち、また後にも上級教師の試験に落ちました。そして彼の存命中に彼の研究は評価されませんでした。しかし今は、世界中にその名を知らない人のいないほど有名で、遺伝学の祖と呼ばれています。彼は生物学において、創造主のみわざの重要な解明をしたのです。

鎌池ツアー@ 2018 白馬セミナー



集合写真@ 2018 白馬セミナー



遺伝の法則 vs. 進化論

エンドウマメの実験



メンデルの時代、まだ遺伝子の存在は確認されていませんでしたが、メンデルは「要素」ということばで遺伝子と同様のものを表現しました。彼は、エンドウ豆を用いて純系のエンドウを、黄色(YY)

と緑(gg)を交配させると第一世代はすべて黄色(Yg)となり、第一世代同士を交配させると第二世代は黄色(1YY, 2Yg)と緑色(1gg)が3:1に分かれることを論理的に証明しました。ダーウィンは同時期にハトの実験で同様の交配実験をしていましたが、第二世代が3:1に分かれることの発見には至りませんでした。

遺伝子の存在がわかったことで、親の遺伝子が子にそのまま受け継がれることがわかりました。ですから、聖書が教えているように、創造された種類ごとに生物は、存在します。種類を超えてネズミからネコが生まれるということはありません。

しかし進化論者は、遺伝子が変異することで進化を引き起こすと

考えました。そしてショウジョウバエなどに放射線を照射する実験などを何十年も重ねて遺伝子を変異させました。しかしショウジョウバエが蚊など他の種類になることはなく、現れるのは、遺伝情報が破壊されてしまった奇形のショウジョウバエでした。

突然変異は、本来の遺伝情報が失われてしまう現象であって、新しい情報が追加されることはなく、異なる生物に進化した例もありません。実際に観察されるのは、遺伝子が受け継がれて同じ種類の生物が生じることだけです。

メンデルのように創造された世界を生きている人にとって、進化論は机上の理論であって、現実には起こっていないことをはっきりと理解できるのです。

2018 白馬セミナーアンケート

*「種類に従って」はとても気になっていた事なので、講演を聞いて良かった。／氷河時代は火山灰が太陽を隠し、夏に氷がとけきらずに氷河が発達したことに驚いた。

*創造の一週間、説明を聞くまでは疑問も理解ありませんでした。今回も、ヨブ記や第二ペテロ3:16の解き明かし等、こんがらかりの思考を素直にスムーズにしてくださいました。感謝です。

*天地創造の一週間、ものづくりから考える創造の一週間で順序が大切だということ、納得できました。／お話を聞いてサルとヒトは別だと思いました。今までサル目ヒト科だと思っていたのがうそのようです。／歴史を紐解くことはおもしろいと思いました。聖書と中国のつながりを知る事ができ、漢字のお話はおもしろかったです。／聖書通りに創造を信じる、素直な気持ちで聖書通りに創造を信じようと思います。

*なるほど、なるほど聞いてなっとく！とても具体的に良く解りました。聖書を心新たに読みたいと思いました。起きよ！光をはなて！！主によって、私って一流！

*天地創造の一週間、創造主は人を愛するがゆえに順番よく人が住みやすいようにこの家(地球)を創造されたことを知ることが出来感謝する。／特に漢字の成り立ちに興味があり、さらに勉強したいと思います。

*創造の一週間の順序を理解できた。子供たちにわかりやすく話をするための材料にしたいと思います。／進化説は仮説にあり、その証拠は都合のよいもののみを集めたものであることを理解できた。／ノアの箱船に収容された動物の数はノアの家族で世話できる数であることを理解できた。／創造の出来事は聖書全体の基本であること、曲解するときクリスチャン人生は矛盾に満ちる事を理解できた。

*天地創造の一週間、短期間で創造することはかなり重要であり進化論の様な時間を経て地球を造るのは無理があると改めて感じた。／創世記、主、アダムとイヴの行動が文字に現れていることに矛盾を一切感じなかった。

*進化論は脆弱な推測、調べれば調べるほど納得。進化論の間違いが解りました。ST

*身近な漢字と聖書の関係を知ることが出来とても興味深かったです。改めて聖書をそのまま信じる大切さを学びました。

*科学者そのものが、科学やパラダイムの危うさを自覚している場合があることをむしろ一般人が知らないでいることが危険だと思われました。

*氷河期と氷河形成とヨブ記、創世記のつながりがわかりやすく整理されて感謝でした。／創造論を学んでいくということは、創造主のみおもいに思いを馳せ近づいていくことであると思われました。／正海先生の40年の軌跡とビジョンへの招きは大変感動的でした。

*天地創造の一週間、人が住む環境が出来上がるまでの順番が、どれ一つ違っても完成しないことがわかり、それが正しく書かれている聖書の素晴らしさ、偉大さを改めて気づくことができました。／漢字の形の意味が聖書の内容と一致することにとっても驚きました。

*合唱練習に参加しましたが「賛美とは？」深く考えさせられました。ギター演奏、サクソ演奏素晴らしかったです。

*洪水その後の出来事にともなう言語の起源という視点からの聖書の読み方は大変役にたちました。

*紅葉狩り、ほんとに素晴らしく美しかったです。そのようにお造り下さったことを主を賛美し、感謝しました。

*私たちの住まい、地球それが宇宙の中で絶妙なバランスで位置付けられ、創造の工程も人間の技では及びもつかない順番とタイミングで整えられたのですね。進化論は脆弱な推論、私たちは義務教育で当然の様に生物の進化を勉強してきました。しかし、用いている図は真理でないものが多い事が解りました。真理を追究するものが科学であると思っていた、思い込みに気付くことが出来ました。／「聖書自体に語らせよ」との言葉、心に残りました。

献金のお願い

国内外に創造のみわざを伝える
ジェネシスジャパンの働き前進
のため、ぜひご支援ください。
ゆうびん振替 00350-7-3364
ゆうちょ銀行 10650-52405611

イベント案内

■青少年向け春の創造セミナー
「空気の不思議な世界」
2019/04/01(月)～02(水)13:00～
@日光オーリーブの里
対象：中高生以上大人向け
講師：新井智・宇佐神実
お問い合わせ・セミナーのご依頼は、
ジェネシスジャパンまで

創造を伝える働き人養成講座

【募集要項】

- ・聖書の言葉が創造主の言葉だと信じる人。
- ・御子イエス・キリストを救い主と信じている人。
- ・創造を信じることの大切さを学び、伝えたいと願っている人。

講座の目的と概要

- *創造主のみわざのすばらしさに感動し、その感動を伝える働き人が起こされる
 - *創造論の講演に加え、創造論の背景となる知識や考え方を少人数で学ぶ
 - *創造を伝えるのに使える資料の提供
 - *修了証授与(全日程参加者)
 - *創造論を用いての個人伝道、CSや教会でのメッセージ、講演ができるように協力
- 2泊3日5食・定員12名・参加費3万円

講座開催予定

- 高知県・足摺岬 2019/01/29(火)～31(木)
- 滋賀県・びわ湖 2019/02/04(月)～06(水)
- 神奈川県・箱根 2019/03/11(月)～13(水)

詳細はジェネシスジャパンへお問い合わせください